



本作は、国のハンセン病隔離政策の誤りを指摘し、今なお私たちの日本社会に根強く残るハンセン病の元患者らに対する偏見・差別と闘い続けてきた弐雄二さんの生涯を描いたものです。弐さんは、隔離政策によって奪われた元患者の名誉と基本的人権の回復を強く訴えた活動家であった反面、人を愛し、文学に勤しみ、詩作を通じて人々の心に響く作品を残した優しい人でした。

未来を担う若い人々にはハンセン病差別だけでなくあらゆる差別をなくし、人権を守る努力をして欲しいと強く思います。本作は、そのことを考えるための重要なメッセージを皆さんに投げかけています。若い皆さんに是非観て欲しいビデオです。

国立療養所栗生楽泉園入所者自治会長・藤田三四郎



療友たちと

左から鈴木時次さん、弐雄二さん、鈴木幸次さん、藤田三四郎さん、浅井あいさん、田尻千代さん。



2001年撮影・寺島萬里子

弐雄二 (にだま ゆうじ)

詩人。1932年東京都生まれ。39年にハンセン病を発症し、国立療養所多磨全生園に入所。51年には国立療養所栗生楽泉園に転園。62年に詩集『鬼の顔』(昭森社)を出版。その後も詩集『ライは長い旅だから』(詩・弐雄二/写真・橋本在 昭森社)や自叙伝『わすれられた命の詩』など数々の作品を発表するとともに、99年に原告として東京地裁に「らい予防法人権侵害罪・国家賠償請求訴訟」を提訴するなど、ハンセン病回復者の名誉回復に力を尽くす。2014年5月11日没。



【出演】 国立療養所栗生楽泉園入所者、職員、元職員の皆さん 妻 信子 朗読:杉本凌二 ナレーター:坪内 守 聞き手:北原 誠
【スタッフ】 構成・演出:大塚正之 撮影:清水良雄・須藤進司 撮影技術:上原 茂・奥井義哉 照明:渡辺研次 音効:岡田義男 CG:金山泰光
 MA:青多良一・桑原 卓 マスティング:太田洋一 演出協力:落合智子・大山麻里 野里元士 プロデューサー:宮本直実
 写真協力:黒崎 彰・吉幸ゆたか 寺島萬里子 資料提供:朝日新聞・東京新聞・みずす書房・国立公文書館・国立ハンセン病資料館
 撮影協力:国立療養所栗生楽泉園・国立療養所多磨全生園・重忠歴史資料館
 協力:劇団男魂メンソウル・ドンカンパニー・Brain23・ソニーPCL・9月1日撮影所資料館見学の高校生のみなさん

同時上映

「家族・親族への思い～ハンセン病回復者からのメッセージ～」

(30分)

2001年の国賠訴訟判決後の和解交渉で、「国は家族もまたハンセン病になった人を排除した加害者」と主張していました。本当にそうなのでしょうか。家族であったことを隠さざるを得なかったのは社会の側に偏見や差別があるからではないでしょうか。ハンセン病回復者自身は、家族が受けた被害をどのようにとらえておられるのでしょうか。また家族や親族に対してどのような思いを持ってこれまで生きてこられたのでしょうか。3人のハンセン病回復者の方に証言していただきました。



製作・著作
 社会福祉法人恩賜財団
 大阪府済生会
 ハンセン病回復者支援センター

製作・協力
 「もういいかい」映画制作委員会

上映日時 2017年8/19(土)～8/25(土) 連日13:00～

「弐雄二 ハンセン病とともに生きる」(43分)+「家族・親族への思い～ハンセン病回復者からのメッセージ～」(30分)
 当日1,100円均一/シアターセブン会員1,000円

8/19(土)のみ 特別トーク開催

「ハンセン病回復者として地域で生きるということ」

加藤めぐみさん(ハンセン病回復支援センター・コーディネーター)とハンセン病関西退所者原告団いちようの会事務局長との対談

株式会社淀川文化創造館
シアターセブン
 大阪府淀川区十三本町1-7-27 宇野東シティ 5F
TEL&FAX 06-4862-7733
<http://www.theater-seven.com/>
info@theater-seven.com @juso_theater7

